

## 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

#### 小学4年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- |                                   |    |   |   |
|-----------------------------------|----|---|---|
| ◇ 目的や進め方を確認し、司会の役割を果たす            | 設問 | 1 | 一 |
| ◇ 登場人物の気持ちについて、場面の移り変わりと結び付けて想像する | 設問 | 3 | 二 |
| ◆ 中心となる語や文を見つけて文章の内容を短くまとめる       | 設問 | 4 | 二 |
| ◆ 修飾と被修飾との関係を理解する                 | 設問 | 4 | 四 |

#### 小学5年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- |                               |    |   |   |
|-------------------------------|----|---|---|
| ◇ グラフを用いた目的を捉える               | 設問 | 2 | 二 |
| ◇ 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する | 設問 | 2 | 三 |
| ◆ 目的や意図に応じて書き表し方を工夫する         | 設問 | 2 | 四 |
| ◆ 修飾と被修飾との関係を理解する             | 設問 | 3 | 七 |

#### 小学6年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- |                              |    |   |     |
|------------------------------|----|---|-----|
| ◇ 目的に応じた取材の進め方を捉える           | 設問 | 1 | 一   |
| ◇ 資料を用いた目的を捉える               | 設問 | 1 | 三 1 |
| ◆ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする | 設問 | 2 | 三   |
| ◆ 目的に応じて、文章から必要な情報を取捨選択し整理する | 設問 | 3 | 五   |

#### 小学校国語の課題に対応した指導改善のポイント（☑していきましょう。）

- 「書くこと」や「読むこと」の領域で、目的に応じて必要な情報を選択して記述する設問や、修飾と被修飾との関係に関する設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
  - 「書くこと」の領域において、書く目的や意図を明確にした上で、事実と感想、意見を区別させたり、相手を意識させたりして書く場面を設定している。
  - 「読むこと」の領域において、目的に応じて、必要な情報を見付けさせるために、中心となる語や文に線を引かせ、その箇所になぜ着目したか、友達と交流させる場面を設定している。
  - 修飾と被修飾との関係を理解させるために、修飾語がどこに係るのか矢印を書き込ませるなど、文の構成を理解する場面を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,631	65.0	2.1	60.0	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	3	66.6	2.3	60.0			
	我が国の言語文化に関する事項	1	73.7	3.9	70.0			
	話すこと・聞くこと	2	72.6	0.1	65.0			
	書くこと	4	64.8	2.5	60.0			
	読むこと	4	58.0	2.0	55.0			
評価の観点	知識・技能	4	68.4	2.7	62.5			
	思考・判断・表現	10	63.6	1.8	59.0			
問題形式	選択式	10	66.7	1.1	60.0			
	短答式	2	78.1	4.4	70.0			
	記述式	2	43.2	4.8	50.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと			県	県	県	県		
1	一	目的や進め方を確認し、司会の役割を果たす			○		○	○	81.7		0.1	70		
1	二	必要なことを質問する			○		○	○	63.4		0.1	60		
2	一	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる			○		○	○	69.1		0.4	60		
2	二1	書く内容の中心を明確にして書く			○		○	○	58.0		0.6	60	○	
2	二2	理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する			○		○	○	49.4		4.1	50	○	
2	二3	敬体と常体の違いに注意しながら書く			○		○	○	82.6		4.9	70		
2	二4	送り仮名の付け方について理解する「美しい」	○				○	○	87.7		0.8	70		
2	二5	漢字の「へん」について理解する	○				○	○	73.7		3.9	70		
3	一	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える			○		○	○	57.5		0.8	60	○	
3	二	登場人物の気持ちについて、場面の移り変わり結び付けて想像する			○		○	○	66.0		0.8	50		
4	一	段落相互の関係を捉える			○		○	○	71.4		1.2	60		
4	二	中心となる語や文を見付けて文章の内容を短くまとめる			○		○	○	36.9		5.4	50	○	
4	三	主語と述語との関係を理解する	○				○	○	71.6		2.8	60		
4	四	修飾と被修飾との関係を理解する	○				○	○	40.6		3.3	50	○	

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,878	65.4	2.6	60.0	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	67.9	3.3	68.0	▼		
	話すこと・聞くこと	4	64.7	0.5	60.0			
	書くこと	4	64.2	1.8	52.5			
	読むこと	4	64.3	4.4	57.5			
評価の観点	知識・技能	5	67.9	3.3	68.0	▼		
	思考・判断・表現	12	64.4	2.2	56.7			
問題形式	選択式	13	69.8	1.6	62.3			
	短答式	1	72.8	5.9	70.0			
	記述式	3	44.1	5.7	46.7	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点	問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		選択式	短答式	記述式	県	県				
1	一	司会の役割を果たしながら、話し合いを進める	○				○			73.1	0.3	70			
1	二	話の内容が明確になるように、話の構成を考える	○				○			61.5	0.3	60			
1	三	必要なことを質問しながら聞き、自分が聞きたいことの内容を捉える	○				○			71.7	0.3	60			
1	四	互いの立場や意図を明確にしなが話し合い、考えを広げたりまとめたりする	○					○		52.5	1.1	50			
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		○			○			73.8	0.4	60			
2	二	グラフを用いた目的を捉える		○			○			74.5	0.4	60			
2	三	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する		○			○			74.5	0.5	50			
2	四	目的や意図に応じて書き表し方を工夫する		○				○		33.9	5.8	40	○		
2	五	文脈に即して、漢字を正しく使う「細かく」	○					○		72.8	5.9	70			
3	一	語句を文章の中で正しく使う「はぐくむ」	○					○		69.7	1.1	70	○		
3	二	目的に応じて、必要な情報を見付ける			○			○		75.5	1.2	60			
3	三	文と文との接続の関係を理解する	○					○		91.8	1.3	70			
3	四	文章全体の構成を捉える			○			○		62.9	1.9	60			
3	五	叙述を基に内容を捉える			○			○		72.8	4.2	60			
3	六	主語と述語との関係を理解する	○					○		48.9	3.5	70	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
3	七	修飾と被修飾との関係を理解する	○										56.3		4.7	60	○
3	八	文章を読んでまとめた意見や感想を共有する			○						○		46.0		10.3	50	○

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,784	69.6	3.4	58.9	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	5	74.0	2.9	62.0			
	話すこと・聞くこと	4	79.5	0.8	60.0			
	書くこと	5	68.7	1.1	58.0			
	読むこと	4	55.2	9.4	55.0			
評価の観点	知識・技能	5	74.0	2.9	62.0			
	思考・判断・表現	13	67.9	3.6	57.7			
問題形式	選択式	10	77.5	0.7	61.0			
	短答式	4	76.1	4.3	65.0			
	記述式	4	43.2	8.9	47.5	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴 話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと				県	県				
1	一	目的に応じた取材の進め方を捉える	○			○		77.3	0.1	60			
1	二	目的に応じたメモの取り方を捉える	○			○		93.7	0.1	70			
1	三1	資料を用いた目的を捉える	○			○		82.8	0.4	60			
1	三2	目的や意図に応じて、取材内容を基に自分の考えをまとめる	○				○	64.0	2.7	50			
2	一	材料の集め方を捉える		○		○		86.1	0.1	70			
2	二	目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する		○		○		83.8	0.2	60			
2	三	目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする		○			○	32.1	3.1	40	○		
2	四	文と文との接続の関係を理解する	○			○		50.5	7.1	60	○		
2	五	資料を用いて、書き表し方を工夫する		○		○		67.5	0.7	60			
2	六	文章全体の構成や展開を考える		○		○		73.8	1.4	60			
2	七	日常よく使われる敬語を理解する	○			○		61.4	1.0	50			
3	一	要旨を把握する		○		○		77.8	1.7	60			
3	二	目的に応じて、文章から必要な情報を見付ける		○			○	66.5	6.0	60			
3	三	文と文との接続の関係を理解する	○			○		71.1	2.0	60			
3	四(1)	文脈に即して漢字を正しく読む「再び」	○				○	96.4	1.8	70			

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
3	四(2)	文脈に即して漢字を正しく読む「都合」	○					○					91.0		2.4	70		
3	五	目的に応じて、文章から必要な情報を取捨選択し整理する			○			○			○		33.7		11.5	50	○	
3	六	中心となる語や文を見付けて要約する			○			○			○		43.0		18.5	50	○	

## 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校社会（小学6年生）

#### 成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 縄文時代のくらしの様子について理解している 設問3(1)
- ◇ 東大寺の大仏がつくられた理由について、当時の世の中の様子と関連付けて説明することができる 設問6(4)
- ◆ 資料を基に、選挙権年齢が引き下げられた理由として考えられることを説明することができる 設問2(4)
- ◆ 平城京と鎌倉幕府の位置を理解している 設問6(1)

#### 小学校社会の課題を解決するための授業改善に取り組みましょう（☑していきましょう。）

- 資料を基に、政治の仕組みや働きの意味を多角的に考えたり、歴史上の出来事の位置を示したりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
  - 資料から読み取った情報と社会的事象とを関連させ、児童が複数の立場や意見を踏まえて考えたことを互いに説明したり議論したりする場面を設定している。
  - 歴史上の出来事の位置（平城京や鎌倉幕府の場所）や広がりについて、地図などの資料で調べ、白地図に整理してまとめる活動を設定している。

### 小学校理科（小学6年生）

#### 成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 人の呼吸の働きについて、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる 設問1(2)
- ◇ 電磁石の性質について、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる 設問2(2)
- ◆ だ液の働きについて、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想することができる 設問1(4)
- ◆ 簡易検流計という器具の名称を理解し、その正しい扱い方を身に付けている 設問2(3)

#### 小学校理科の課題に対応した指導改善のポイント（☑していきましょう。）

- 実験の結果を見通して問題を解決するまでの道筋を構想したり、観察・実験器具の適切な使い方を捉えたりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
  - 検証計画の立案場面では、実験の手順を考えるだけでなく、自分や他者の予想が確かめられた場合に得られる結果を見通す（予想どおりだったらどのような結果になるかを考える）活動を設定している。
  - 観察・実験の実施場面では、実験器具の正しい名称を使用し、器具を使用する目的や適切な使い方を捉えることができるように一人一人が器具の操作を行う活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,828	62.0	2.9	56.7	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	我が国の政治の働き	8	60.6	▼	2.4	▼	58.8	
	我が国の歴史	13	62.8	▼	3.2	▼	55.4	
評価の観点	知識・技能	16	65.0	▼	2.0	▼	60.6	
	思考・判断・表現	5	52.3	▼	5.6	▼	44.0	
問題形式	選択式	10	65.1	▼	0.4	▼	60.0	
	短答式	6	66.4	▼	3.9	▼	60.0	
	記述式	5	50.4	▼	6.5	▼	46.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		我が国の政治の働き	我が国の歴史				県	県				
1	(1) 国民主権について理解している	○	○	○	○	○	80.1	▼	0.1	▼	60	
1	(2) 日本国憲法の三つの原則について理解している	○	○	○	○	○	86.3	▼	2.9	▼	70	
1	(3) 天皇の地位について理解している	○	○	○	○	○	62.5	▼	0.1	▼	60	
1	(4) ユニバーサルデザインについて理解している	○	○	○	○	○	30.8	▼	9.8	▼	50	○
2	(1) 国会・内閣・裁判所の働きについて理解している	○	○	○	○	○	51.2	▼	0.3	▼	50	
2	(2) 資料を基に、国の予算の割合や費目を読み取ることができる	○	○	○	○	○	77.8	▼	0.5	▼	70	
2	(3) 資料を基に、世代別の投票率の推移を読み取ることができる	○	○	○	○	○	69.6	▼	0.5	▼	60	
2	(4) 資料を基に、選挙権年齢が引き下げられた理由として考えられることを説明することができる	○	○	○	○	○	26.2	▼	4.6	▼	50	○
3	(1) 縄文時代のくらしの様子について理解している	○	○	○	○	○	93.5	▼	0.1	▼	70	
3	(2) 弥生時代に使われていた道具について理解している	○	○	○	○	○	50.8	▼	0.1	▼	60	○
3	(3) 資料を基に、弥生時代の集落にさくやほりなどがつくられた理由として考えられることを説明することができる	○	○	○	○	○	59.0	▼	3.4	▼	40	
4	(1) 書院造について理解している	○	○	○	○	○	62.2	▼	4.7	▼	60	
4	(2) 水墨画の代表的作品と、それを大成させた人物を理解している	○	○	○	○	○	82.5	▼	0.2	▼	60	
4	(3) 室町文化の特色について説明することができる	○	○	○	○	○	65.1	▼	5.8	▼	50	
5	(1) 織田信長が取り入れた新しい武器の名前を理解している	○	○	○	○	○	82.4	▼	2.1	▼	70	



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		我が国の政治の働き	我が国の歴史				知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
5	(2)	資料を基に、検地が収入を安定させた理由として考えられることを説明することができる	○					○			○		51.9		7.2	40		
5	(3)	織田・豊臣の天下統一を進めた政策をまとめたものから、武力に関わる内容を読み取ることができる	○					○			○		49.3		7.9	50	○	
6	(1)	平城京と鎌倉幕府の位置を理解している	○					○		○			42.9		1.1	50	○	
6	(2)	鎌倉時代の政治の中心となった身分を理解している	○					○		○			62.7		0.7	70	○	
6	(3)	法隆寺と関わりの深い人物を理解している	○					○		○			55.0		0.9	60	○	
6	(4)	東大寺の大仏がつくられた理由について、当時の世の中の様子と関連付けて説明することができる	○					○			○		59.5		7.1	40		

## 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

#### 小学4年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 切り上げて見積もった結果から分かることを判断することができる 設問1(3)
- ◇ 二次元の表の合計欄に入る数を求めることができる 設問3(3)
- ◆ グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる 設問3(2)
- ◆ 問題場面の数量の関係に着目し、余っているゴムひもの長さを求める式を判断することができる 設問5(3)

#### 小学5年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 示された考えを解釈し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を考えることができる 設問1(2)
- ◇ 混み具合を求めるために必要な量を理解している 設問5(4)
- ◆  $m^3$ で表された体積を $cm^3$ で表すことができる 設問5(2)
- ◆ グラフから読み取ったことを根拠に、示された考えが正しい理由を説明することができる 設問5(6)

#### 小学6年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 2つのミルクコーヒーのコーヒーとミルクの比が等しい理由を説明することができる 設問2(3)
- ◇ 基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる 設問3(1)
- ◆ 問題場面と数直線に関連付けながら、二つの数量の関係を捉え、式に表すことができる 設問5(2)
- ◆ 除法に関して成り立つ性質に着目し、示された分数の除法の計算が正しくない理由を説明することができる 設問5(3)

#### 小学校算数の課題に対応した指導改善のポイント（☑してみましょう。）

■数量の関係を捉えて立式する設問、根拠を明らかにして自分の考えを説明する設問、既習事項を基に考えたり判断したりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。

□示された情報を言葉や図に整理し、数量の関係を的確に捉えて立式するような活動を設定している。また、立式の根拠を示しながら説明する活動を設定している。

□誤りのある考えや根拠が不足している説明を生かして、誤りや不足しているものについて話し合ったり、適切な根拠を示しながら説明したりするような活動を設定している。

□問題解決に取り組む場面で、既習事項との共通点を見いだしながら解決の見通しをもつような活動を設定している。また、学習を振り返る場面で、既習事項と関連付けながら学習内容をまとめるような活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,530	52.0	5.5	54.7	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	8	48.5	6.6	51.3	▼		
	図形	3	42.6	10.2	50.0	▼		
	測定・変化と関係	5	54.6	4.0	62.0	▼		
	データの活用	2	51.7	4.1	50.0			
評価の観点	知識・技能	6	70.0	2.0	68.3			
	思考・判断・表現	9	40.0	7.9	45.6	▼		
問題形式	選択式	4	60.4	3.2	62.5	▼		
	短答式	7	61.4	2.5	60.0			
	記述式	4	27.1	13.3	37.5	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率 県	無解答率 県	期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用						
1	(1) 数量の関係を捉え、基準量を求めることができる			○		○	44.2	0.4	50	○	
1	(2) 四捨五入について理解している	○				○	81.6	0.6	70		
1	(3) 切り上げて見積もった結果から分かることを判断することができる	○				○	72.7	0.8	60		
2	(1) 適切な重さの単位について理解している			○		○	74.0	0.5	70		
2	(2) mで表された長さをcmで表すことができる	○	○			○	46.0	1.5	70	○	
2	(3) 単位の関係に着目し、1kgや1kmのように、1gや1mの単位の前にk(キロ)が付くと、1000倍になることを説明することができる			○		○	25.6	15.4	50	○	
3	(1) 画用紙はしおりを横と縦に何個ずつ敷きつめられるかを考えて、1枚の画用紙からできるしおりの枚数を求めることができる	○	○			○	46.8	4.0	50	○	
3	(2) グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる			○		○	30.0	5.0	40	○	
3	(3) 二次元の表の合計欄に入る数を求めることができる			○		○	73.4	3.1	60		
4	(1) 条件に合う時刻を求めることができる			○		○	83.0	2.5	70		
4	(2) 計算を簡単に行う工夫をすることができる	○				○	54.9	5.1	50		
4	(3) 示された考えを解釈して余りの処理を行い、1000円で30個のいちごが買えないことを説明することができる	○				○	34.0	9.8	30		
5	(1) 台形の特徴について理解している			○		○	62.0	3.6	70	○	
5	(2) 平行四辺形の辺の長さに着目し、長方形の布からマスクを何個作ることができるかを説明することができる	○	○			○	19.0	23.1	30	○	
5	(3) 問題場面の数量の関係に着目し、余っているゴムひもの長さを求める式を判断することができる	○				○	33.0	7.8	50	○	

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,807	50.1	3.6	52.7	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	3	48.1	2.8	50.0	▼		
	図形	4	35.8	1.6	52.5	▼		
	測定・変化と関係	4	57.8	5.0	50.0			
	データの活用	4	58.3	4.6	57.5			
評価の観点	知識・技能	8	57.1	2.6	60.0	▼		
	思考・判断・表現	7	42.2	4.7	44.3	▼		
問題形式	選択式	5	52.3	1.3	62.0	▼		
	短答式	5	68.5	3.5	56.0			
	記述式	5	29.6	5.9	40.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用			県	県	県	県		
1	(1)	面積の求め方について理解している	○			○	○	29.8	0.5	70	○		
1	(2)	示された考えを解釈し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を考えることができる	○			○	○	72.7	1.2	50			
2	(1)	数直線を基に、正時を区切りとした時間の求め方について考察し、式に示された数の意味を説明することができる		○		○	○	54.1	8.3	50			
2	(2)	示された情報を基に、条件に合う時間を考えることができる		○		○	○	74.6	2.3	60			
3		乗数が1より小さい場合、積が被乗数より小さくなることを考えることができる	○			○	○	35.6	4.2	40	○		
4	(1)	小数の仕組みを理解している	○			○	○	47.3	1.1	60	○		
4	(2)	棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる			○	○	○	81.4	1.0	70			
4	(3)	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要なペットボトルキャップの重さの求め方を説明することができる		○		○	○	28.2	7.3	30	○		
4	(4)	二つの観点から分類整理した表を理解している			○	○	○	70.3	2.5	60			
5	(1)	体積の関係に着目し、示された考えが正しくない理由を説明することができる	○			○	○	12.0	3.0	40	○		
5	(2)	m <sup>3</sup> で表された体積をcm <sup>3</sup> で表すことができる	○			○	○	28.6	1.9	50	○		
5	(3)	小数で表された基準量と比較量を捉え、その割合を求めることができる	○			○	○	61.5	3.2	50			
5	(4)	混み具合を求めるために必要な量を理解している		○		○	○	74.3	2.2	60			
5	(5)	平均の求め方を理解している			○	○	○	63.2	8.3	60			
5	(6)	グラフから読み取ったことを根拠に、示された考えが正しい理由を説明することができる			○	○	○	18.0	6.6	40	○		

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,795	53.8	4.0	51.3	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	5	45.5	5.8	54.0	▼		
	図形	4	65.3	2.9	55.0			
	変化と関係	5	51.6	3.5	44.0			
	データの活用	2	52.0	4.7	45.0			
評価の観点	知識・技能	7	56.0	1.9	58.6	▼		
	思考・判断・表現	8	51.9	5.8	45.0			
問題形式	選択式	3	58.5	1.2	56.7			
	短答式	7	55.7	2.0	54.3			
	記述式	5	48.5	8.4	44.0			

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点		問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	県	県				
1	(1)	点対称な図形を理解している	○				○		○		65.2		0.1	60		
1	(2)	示された情報を基に、あと1つ同じ大きさの正方形をつなげて、線対称になる図形を考え、対称の軸を見いだすことができる	○				○		○		55.4		3.1	40		
1	(3)	線対称な図形について、対称の軸の数に着目し、どのように二つに分けているのかを説明することができる	○				○		○		48.2		7.5	50	○	
2	(1)	割合を求めることができる		○			○		○		35.4		4.1	50	○	
2	(2)	示された情報から数量の関係を捉え、基準量と比を基に比較量を求めることができる		○			○		○		44.9		0.6	50	○	
2	(3)	2つのミルクコーヒーのコーヒーとミルクの比が等しい理由を説明することができる		○			○		○		62.1		4.3	40		
3	(1)	基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる		○			○		○		72.7		0.6	50		
3	(2)	目的に応じた買い方を考え、代金を求めることができる	○				○		○		71.6		1.3	60		
3	(3)	問題場面の数量に着目し、文字を用いた式が表す意味を読み取ることができる	○				○		○		61.5		7.9	50		
4	(1)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さを求めることができる		○			○		○		92.3		0.9	70		
4	(2)	示された情報を基に、5年2組と6年1組で「チューリップが好き」と答えた人数の割合が異なることを説明することができる		○	○		○		○		43.1		7.8	30		
4	(3)	平均を求めることができる			○		○		○		60.9		1.5	60		
5	(1)	分数の乗法や除法において、乗数と積、除数と商のそれぞれの大きさの関係について理解している	○				○		○		37.5		2.8	60	○	
5	(2)	問題場面と数直線を関連付けながら、二つの数量の関係を捉え、式に表すことができる	○				○		○		29.0		2.7	50	○	
5	(3)	除法に関して成り立つ性質に着目し、示された分数の除法の計算が正しくない理由を説明することができる	○				○		○		27.7		14.4	50	○	

## 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校社会（小学6年生）

#### 成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 縄文時代のくらしの様子について理解している 設問3(1)
- ◇ 東大寺の大仏がつくられた理由について、当時の世の中の様子と関連付けて説明することができる 設問6(4)
- ◆ 資料を基に、選挙権年齢が引き下げられた理由として考えられることを説明することができる 設問2(4)
- ◆ 平城京と鎌倉幕府の位置を理解している 設問6(1)

#### 小学校社会の課題を解決するための授業改善に取り組みましょう（☑していきましょう。）

- 資料を基に、政治の仕組みや働きの意味を多角的に考えたり、歴史上の出来事の位置を示したりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
  - 資料から読み取った情報と社会的事象とを関連させ、児童が複数の立場や意見を踏まえて考えたことを互いに説明したり議論したりする場面を設定している。
  - 歴史上の出来事の位置（平城京や鎌倉幕府の場所）や広がりについて、地図などの資料で調べ、白地図に整理してまとめる活動を設定している。

### 小学校理科（小学6年生）

#### 成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 人の呼吸の働きについて、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる 設問1(2)
- ◇ 電磁石の性質について、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる 設問2(2)
- ◆ だ液の働きについて、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想することができる 設問1(4)
- ◆ 簡易検流計という器具の名称を理解し、その正しい扱い方を身に付けている 設問2(3)

#### 小学校理科の課題に対応した指導改善のポイント（☑していきましょう。）

- 実験の結果を見通して問題を解決するまでの道筋を構想したり、観察・実験器具の適切な使い方を捉えたりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
  - 検証計画の立案場面では、実験の手順を考えるだけでなく、自分や他者の予想が確かめられた場合に得られる結果を見通す（予想どおりだったらどのような結果になるかを考える）活動を設定している。
  - 観察・実験の実施場面では、実験器具の正しい名称を使用し、器具を使用する目的や適切な使い方を捉えることができるように一人一人が器具の操作を行う活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,843	63.5	0.6	61.1	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	物質・エネルギー	6	49.7	0.5	60.0	▼		
	生命・地球	13	69.8	0.7	61.5			
評価の観点	知識・技能	9	66.0	0.8	64.4			
	思考・判断・表現	10	61.3	0.5	58.0			
問題形式	選択式	13	66.1	0.3	63.1			
	短答式	3	63.0	1.7	60.0			
	記述式	3	52.7	1.2	53.3	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		物質・エネルギー	生命・地球				県	県				
1	(1)	石灰水を使って二酸化炭素の有無を調べることができることを理解している	○		○	○	91.0	0.0	70			
1	(2)	人の呼吸の働きについて、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる	○		○	○	85.5	0.2	60			
1	(3)	動物の呼吸について、見つけた資料を、問題に対応する視点で分析して、解釈することができる	○		○	○	89.9	0.0	70			
1	(4)	だ液の働きについて、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想することができる	○		○	○	46.0	0.3	50	○		
1	(5)	だ液の働きについて、自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善することができる	○		○	○	54.0	0.2	60	○		
2	(1)	身の回りには電磁石（磁石）に引き付けられる物と引き付けられない物があることを理解している	○		○	○	47.6	0.0	70	○		
2	(2)	電磁石の性質について、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる	○		○	○	68.0	0.2	50			
2	(3)	簡易検流計という器具の名称を理解し、その正しい扱い方を身に付けている	○		○	○	21.3	1.5	50	○		
3	(1)	晴れと曇りは、空全体の雲の量で決まることを理解している	○		○	○	81.6	0.2	70			
3	(2)	雨の日は気温の変化が小さいことを理解している	○		○	○	50.4	0.5	60	○		
3	(3)	土と砂の水のしみ込み方について、実験で得た結果を、自分で発想した予想が正しかったかどうかの視点で分析して、解釈することができる	○		○	○	51.9	0.9	40			
3	(4)	天気と雲の様子について、観察結果の正しい記録の仕方を身に付けている	○		○	○	88.9	0.1	70			
3	(5)	台風がもたらす天気の変化や台風が接近しているときの安全な行動の仕方について理解している	○		○	○	95.0	0.2	70			
4	(1)	空気や水の温度変化に伴う体積変化について、実験で得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈することができる	○		○	○	55.9	0.5	70	○		
4	(2)	金属の温度変化に伴う体積変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想することができる	○		○	○	55.5	0.4	60	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		物質・エネルギー	生命・地球				知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
4	(3)	○					○			○			50.1		0.6	60	○	
5	(1)	○					○			○			82.3		3.4	70		
5	(2)	○					○				○		55.7		2.1	60	○	
5	(3)	○					○			○			35.6		0.8	50	○	